

36. くりのみ幼稚園・保育園保護者への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）9月29日（木）10:00～

○場 所：くりのみ幼稚園・保育園

質問・意見等	豊中市からの回答
<p><b>この構想案に至るまでに40数通りの検討を行ったという話だが、資料として出ていない。その資料は求めれば出してもらえるのか。</b></p>	<p>校区編成と整備場所を組み合わせると40数通りほど案が考えられますが、通学距離や敷地面積などの観点から総合的に判断して数通りに絞り、最終的に2案をご提案しています。資料の体をなしているのは数通りに絞った段階であり、その資料であればお示しすることは可能です。</p>
<p><b>確認だが、現状維持の案はないということか。</b></p>	<p>現状維持とは何もしない、課題を先送りにするものと認識しています。教育委員会としましては、喫緊の課題として、抜本的に改革しなければならないと考えています。また、小中一貫教育によって得られる成果は大きいと考えております。現在の小・中学校は、学級数に応じて教職員が配置されていますが、学級数が少ないため、市は独自に教職員の加配を行って対応している状況です。今後も子どもたちの数の減少が見込まれる中で、安定した学校運営をめざすという面もあります。</p>
<p><b>教職員数よりも質の高い教職員を確保すべきだと思うが、どう考えているのか。</b></p>	<p>教職員数の確保は大切であると認識しています。庄内地域の学校には、手厚く教職員を配置しています。質の確保については、豊能地区3市2町で教職員の採用及び研修を行っており、優秀な人材をきめ細かく指導、育成する体制を整えています。</p>
<p><b>いろいろな案を検討したとのことだが、どうして野田小学校がなくなってしまうのか、理解できない。庄内小学校は北校のエリアで見ると南寄りであり、通学距離も遠くなってしまう。子どもの居場所づくりという観点でも、学校をなくすという考え方はおかしい。また、地域コミュニティの問題も、今後検討するでは許されない大きな問題である。第八中学校と第九中学校の通学区域変更で揉めていることも聞き及んでいる。なぜ、児童数の多い野田小学校と千成小学校がなくなってしまうのか、理解できない。</b></p>	<p>さまざまな観点から検討した結果、3小1中案、3小2中案、2小2中・東西案を経て2小2中・南北案に辿りつき、その中で、通学距離、安全性、さらに（仮称）南部コラボセンターとの連携の観点から庄内小学校敷地を選択した経緯があります。野田小学校敷地の利用は、検討過程において庄内小学校敷地と比較、検討した結果、構想案として選択しなかったものです。</p>
<p><b>この案は誰のことを考えてつくったのか。</b></p>	<p>庄内地域すべての子どもたちのことを考えてご提案しています。</p>

<p><b>教育委員会はこの案で固めているのではないか。決まっているものを報告しているにすぎず、いくら意見を言っても聞き入れないのであれば時間の無駄である。</b></p>	<p>まだ案は決まったものではなく、皆様のご意見を伺いながら、検討を進めていきたいと考えています。他の説明会でも「2案ありき」「もう決まっているように聞こえる」とのご指摘をいただいております、ご説明の仕方が悪いのかもしれませんが、決して決まったものではありません。</p>
<p><b>保護者として一番心配なのは通学距離が伸びることである。スクールバスを出すとか考えていないのか。</b></p>	<p>北校の場合、稲津町から庄内小学校まで約2kmあり、少し遠くなることは事実ですが、今後、安全に通えるルートをお示しし、関係機関等と協議しながら、必要な措置を検討していく予定です。他市の事例を見ても、2kmでスクールバスを出している例はなく、現在のところ考えていません。</p>
<p><b>通学しづらい子どもたちの対応はどうするのか。学校が遠くなると、ますます増えるのではないか。</b></p>	<p>小中の教職員が同じ校舎に一緒にいることは教育上、有効であると考えています。低学年のときの様子を知る教職員がいれば子どもたちも安心でき、教員同士も子どもたちの情報を共有しながら協力して見ることができます。また、スクールカウンセラー等を常駐させるなどして、登校できるように対応してまいりたいと考えています。</p>
<p><b>仮に案1のように南北で再編したとしても、今の学校のように少人数で学級編制すればよいのではないか。少人数の良さ、メリットがあり、それを生かしてほしい。</b></p>	<p>少人数の良さもありますが、制度上は1,2年生まで35人学級編制、3年生以上は40人学級編制であり、教職員の配置は学級数に応じて決められています。市独自施策によって学級を増やし、市単費で教職員を加配しているケースもありますが、財源や人材に限りがあること、また設備面においても学級数に見合う教室数を用意しなければいけません。制約があることから、現在のような少人数での学級編制は困難であると考えています。ただし、少人数指導や、異学年交流など教育活動の工夫は可能であり、今の学校の良さを活かすことも可能と考えています。</p>
<p><b>この案を考えた担当者に、庄内地域の住人はいるのか。住人がいるのであれば、このような案にはならないはずだが。</b></p>	<p>庄内地域に住む者はいませんが、教職員経験等を通じて庄内地域のことは良く理解しています。</p>
<p><b>私は庄内東町3丁目に暮らしており、現在の野田小学校よりも豊南小の方が近い。今回の学校再編に合わせて豊南小学校に変更することも考えてほしい。</b></p>	<p>豊南小学校、高川小学校もクラス替えのできない学年のある小規模校ですが、過去の経緯や地域事情等を勘案し、天竺川の東側、第十二中学校区となる豊南小学校、高川小学校については、別途検討することとしています。</p>

<p>やはり市教委の説明は2案ありきに聞こえる。住民が自分の地域中心で物事を考えるのはやむを得ないことである。野田小の敷地を使わなければ通学距離が遠くなる。その問題をどのように解決するのか。また、学校と合わせて地域がどうなるのか、そこも考えてもらう必要がある。</p>	<p>ご意見として承りました。</p>
<p>タイトルは、魅力ある学校づくりではなく、魅力ある地域づくりとすべきである。</p>	
<p>個人的には、今の通学区域にこだわらず、庄内地域を均等に3分割して小・中学校を再編すればよいと思う。</p>	
<p>この学校再編は、いつまでに決めなければならないというスケジュール上の制約はあるのか。</p>	<p>課題の大きさや深刻さを考えると、このままの状態を放っておくわけにはいきませんので、できるだけ早くに計画を固めたいと考えておりますが、新しい学校をつくっていく上で、保護者、地域の皆様のご理解とご協力が不可欠ですので、拙速に進めるつもりはありません。事業完了時期が決められたわけではありませんが、現実的にすべての方の満足が得られる案はないと考えています。</p>